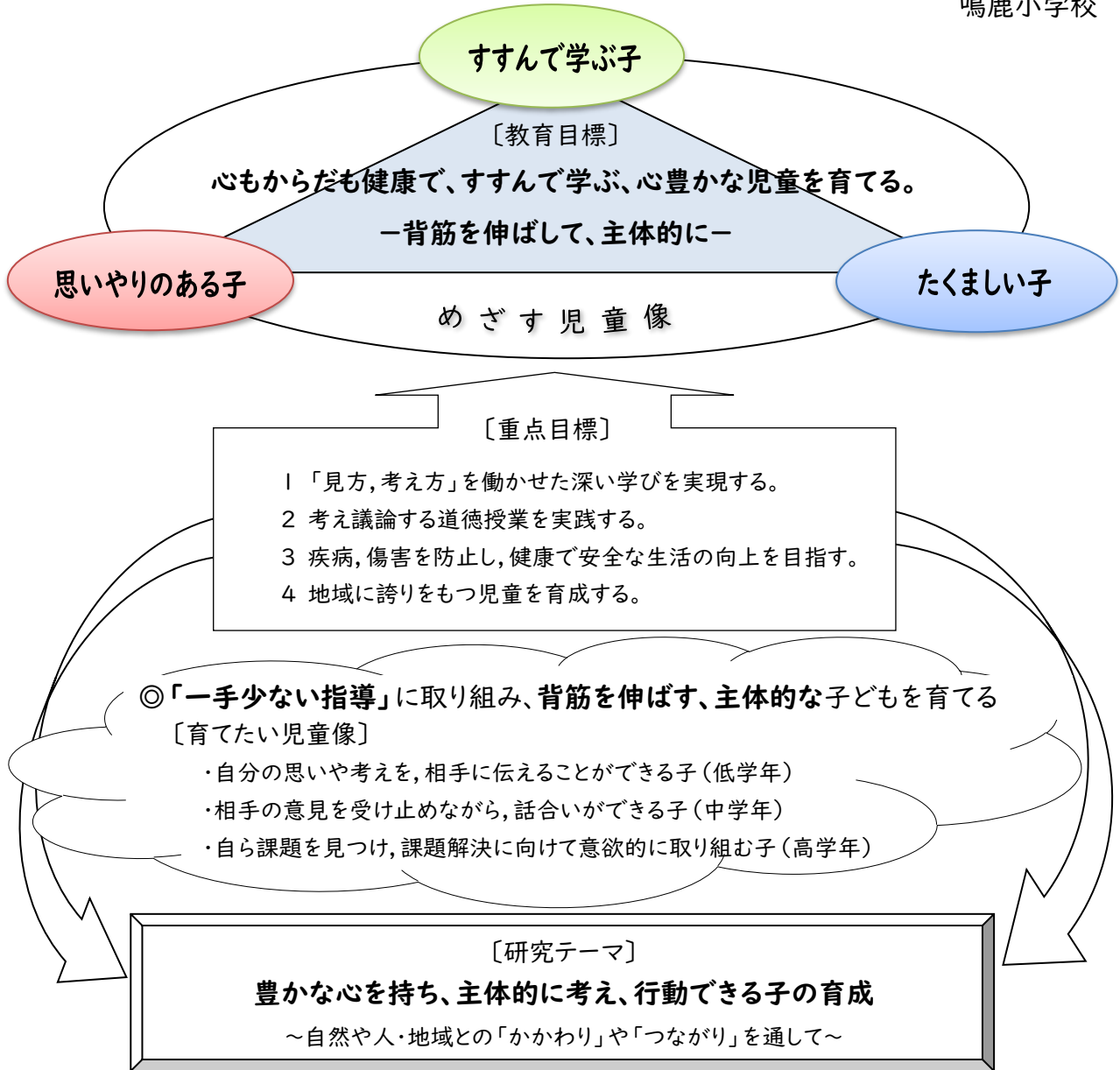
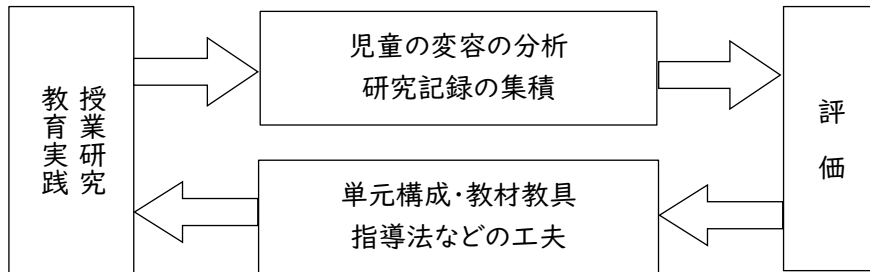


研究推進計画(案)

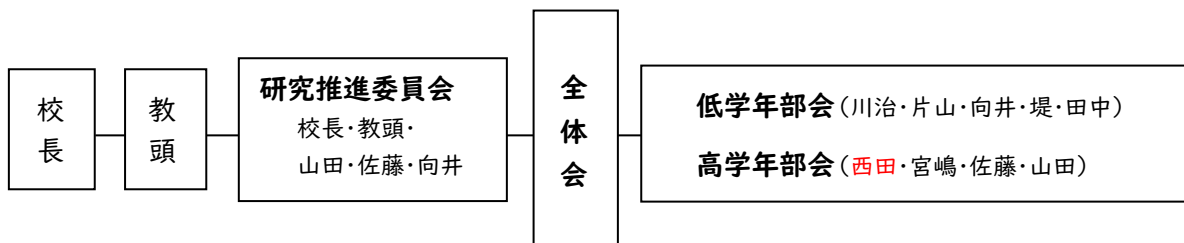
鳴鹿小学校



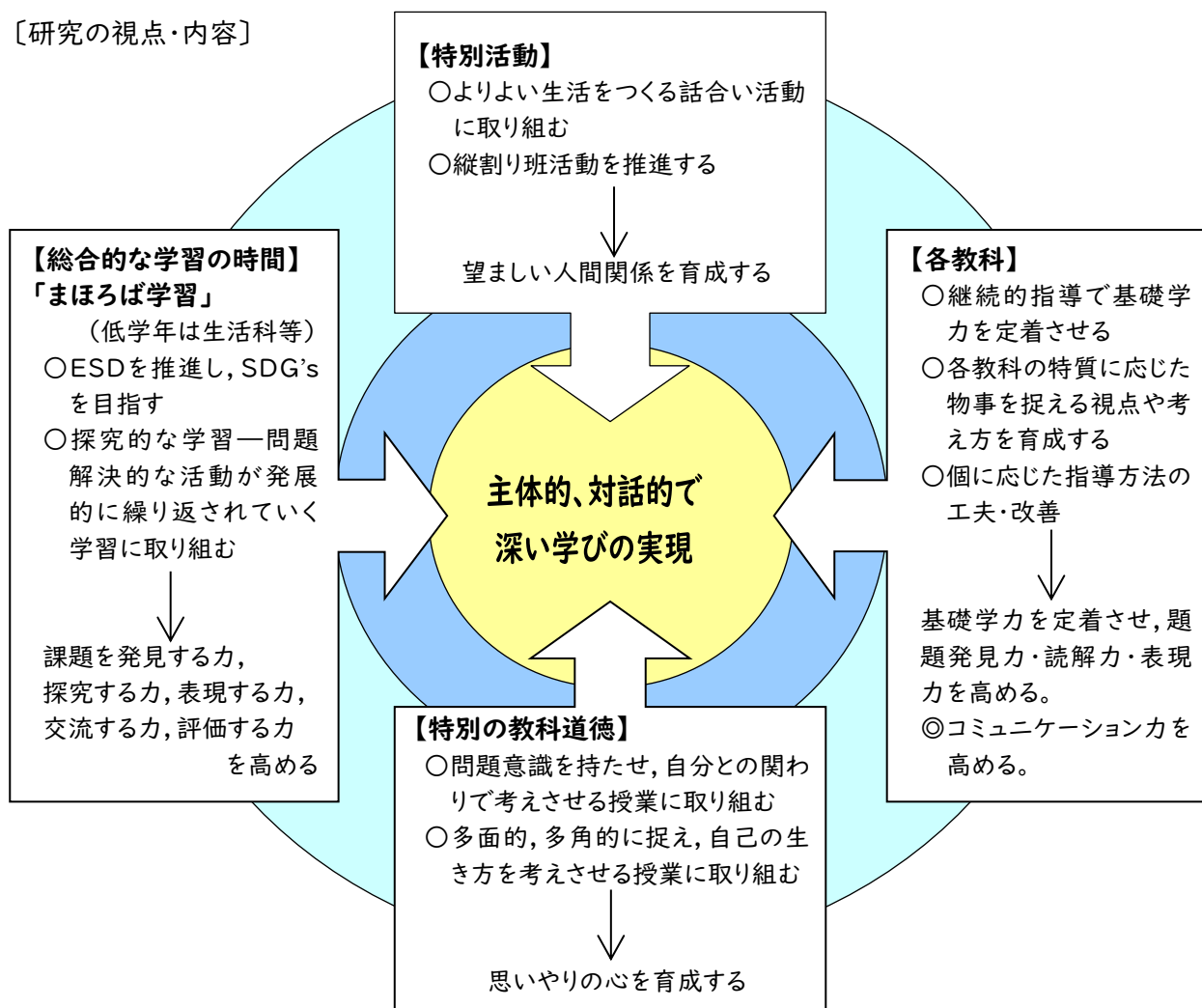
〔研究の流れ〕



〔研究組織〕



[研究の視点・内容]



[授業研究]

- 「各教科」および「特別の教科道徳」授業力向上のための取組
 - ア 子どもたちが主体的に参加し、「考え議論する授業」を実践する。
 - イ 道徳授業の質的転換を図り、質の高い指導方法を追究する。
 - ① 読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習
 - ② 問題解決的な学習
 - ③ 道徳的行為に関する体験的な学習
 - ④ 深く考えるテーマ型授業、子供と作る生きた授業
 - ウ 系統性のある指導と研究の蓄積を行うための指導資料やメモ、記録写真、記録ビデオなどの保存
 - エ 指導主事訪問で1つ全体授業、定期的に参観授業を提案。指導主事訪問の一般授業は、事前・事後研究会を行わないが、校内研究授業においては、事前・事後研究会を低・高学年で分かれて行い、授業力向上を目指す。(事後研究会不参加の場合は、「良い点」「改善点」等のメモを提供)
 - SDGSのマグネットシートを掲げて、授業の中で活用していく。
- 個に応じた指導方法の工夫・改善
 - ア 興味・関心をもって取り組める教材・教具・指導方法の工夫
 - イ 授業のユニバーサルデザイン化、ICT(タブレット)活用に努める。
 - ウ 専門機関との連携

[具体的方策]

(1) **確かな学力の確立**

- 各教科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方を育成する
- 確かな学力を育成する

ア 継続的な指導で基礎学力を定着させる

- ・授業の中に、読み・書き・計算トレーニングの時間を設定し、繰り返し取り組む

視写、漢字練習(既習漢字・新出漢字の読み書き)、計算練習、既習内容の復習とする。

- ・各自が記録を取ったり互いに採点したりして、向上が実感できるように評価する
- ・木曜日の朝の活動で100文字作文に取り組み、書く力を育成する(火・水は読書)

テーマを決めて書かせたり、本や新聞記事を読んで書かせたりもする。

- ・新聞記事を使ったNIEの授業を行ったり、新聞記事を取り入れたりする活動を行う

イ 授業のユニバーサルデザイン化、学びやすい学習環境、ICT(タブレット)の積極的活用に努める

ウ 長期休業明けに漢字や計算のテストの実施する

- ・全学年、長期休業中の学習課題として漢字や計算の練習を設け、休み明けに練習の成果をテストで確認する。

(4月2~5年 坂井市学力調査・6年 全国学力調査)8月始業式-パワーアップテスト、12月-5年 SASA -1,2,3,4,6年 坂井地区確認テスト

漢字や計算の練習課題は児童の過重な負担にならないよう、休み前の学期中に国語や算数の時間で取り組んだ課題の中から選ぶ。また、課題を厳選して、努力して繰り返し練習すればほとんどの児童が合格できるように配慮する。
算数の内容は、計算だけに限らず、児童が身に付けなければならない基礎基本となる事項を盛り込むことも考慮する。

エ 読解力・表現力を向上させる指導の工夫

- ・発達段階に応じた思考力及び想像力を身につけられるような指導を工夫する。
- ・自分の考えをまとめて書く場や、互いの思いを交流する場を工夫する。
- ・国語辞典を引く習慣を身につけ、語彙を増やす。
- ・グラフや表を読み取り、課題を立てて、気づいたことを話し合う場面を増やす。

オ 発表力の育成

- ・朝の会や帰りの会などにスピーチの時間を設け、話す力を高める。
- ・児童会活動での発表の場を活用して、話す力を高める。

カ コミュニケーションの向上

- ・話し合い活動の方法を理解させ、自分の考えを説明したり伝え合ったりする場を設ける。
- ・国語科だけでなく各教科等の学習においても、書く活動、話し合う活動を取り入れる。
- ・発表を聞いた後に、自分の感想や考えを伝える場を設け、全員が意見交換できるよう工夫する。

キ 読書環境を充実させ、読み聞かせ、お話し会を定期開催する

- ・「朝の活動の時間」火、水曜日：全校20分間読書(8:00~)により、豊かな心を育成する
- ・子どもが読む本に偏りが出ないように、本の選択のジャンルや内容などを指導する

○ESDの実践

ア 持続可能な社会の担い手づくりの視点からの環境教育の充実

- ・自然とのふれあいによる豊かな体験活動の推進
- ・環境保全につながる学習活動の推進
- ・ユネスコスクールの考えに基づいた実践
- ・ESDカレンダーに基づいた学習活動
- ・情報を収集したり発信したりする活動の推進(まほろばフェスティバル)

イ まほろば学習の進め方

つかむ	子どもの関心・意欲を高める方法、気づきを生む視点の示し方 ウェビング法・KJ法の利用による課題発見 学習計画の立て方・時間の目安
調べる	調べ方(体験・器具・記録・図書・インターネット等)の提示と児童の利用促進
まとめる	まとめ方・表現方法の工夫(個人・グループで・学年で)
発信・ 行動する	広げる方法(異学年・家庭・地域に発信) 環境問題を自分の問題として捉える場の設定

ウ ESDの取組の紹介

- ・ESDカレンダーに基づいた取り組みを学年掲示板などで紹介
- ・「校長室だより」やホームページのESDコーナーによる紹介
- ・まほろばフェスティバルで地域への発信

エ 学校環境の整備

- ・ビオトープの整備・・・6年(1年)で取り組む ホタル、農園整備
- ・地域の協力者や利用できる関連施設のリストアップ
- ・学校環境緑化モデル事業

(2) **豊かな人間性の育成**

○道徳の時間を要した教育活動全体を通しての心の教育の充実

ア 場に応じたあいさつや返事の指導

イ 読書を通じた豊かな心の育成

- ・読書の習慣化を図る。週末読書・月曜日読書を勧める。(月曜に読書の記録に記録し、担任に提出)
- ・良書を推奨し、感想を交流する。

ウ 多様な縦割り活動の実践

- ・学年を超えた思いやりや人間関係の充実を図る。
- ・年間を通して継続的に活動を展開する。(集団登下校・清掃活動・縦割り遊び・異学年活動)

エ 温かい学級づくりと教育相談の充実、不登校の未然防止

- ・「ハート&ハートタイム」や「子どもの(心の)声調査」で児童理解を図る。
- ・仲間との絆を深め、自分の居場所が確保できるような学級づくりに努める。

オ しあわせの森

- ・とりいれたい・うれしかったことをハナしたい・成長したことをハッピーようにしたいを見つけて書く。職員室前に掲示をする。

○野菜や稲の栽培活動など体験を通じた食の教育の充実

ア 食に関わる人たちや自然の恵みに対する感謝の心の育成

(3) **健やかな体の育成**

○疾病等リスクの軽減と生活の質の向上、健康を支える環境づくりに取り組む

ア 保健指導を充実させ感染症予防を徹底する

イ 食育を推進し健康な身体づくりに取り組む

- ・健康に食が深く関わっていることを給食指導や生活科、家庭科の学習を通して学び、家庭と協力して食育に取り組む

○運動が好きな子を育成し、体力づくりに取り組む

ア 年間を通じたパワーアップタイムの実施による体力向上を図る

- ・児童が意欲的に取り組めるように、全校共通した記録カードを作る
- ・低学年においては、鉄棒や遊具等を利用した運動を取り入れる

イ 休み時間の遊びと運動を奨励する

○規則正しい生活習慣を身に付けさせる

ア 「歯っぴー・ここからチェック」を活用し、早寝早起き朝ごはんの習慣化およびスマートルールの徹底を図る

イ 自立心を育成する

ウ 「スマートルール」を活用し、ネット、携帯、ゲーム機等の使い方を指導する。

エ 毎週月曜日を「ノーメディアデー」とし、ゲームや SNS の使用を控える。本を持ち帰り、読書を奨励する。

また、ゲーム・SNS 利用の時間を毎日連絡帳などに記録する。

○防災や安全に対する意識を向上させる

ア 避難訓練や登下校の交通安全指導を徹底する

(4) **家庭・地域との連携**

○開かれた学校づくりや福井型コミュニティ・スクールの取り組みの推進

ア まほろば協議会の充実による保護者や地域の声の反映

イ 児童参加のホームページづくりによる家庭や地域への情報発信と情報公開
ウ 幼保・中学校の体験入学や情報交換による幼保・小・中連携の推進